



第11号

発行 矢部川をつなぐ会
HP http://www.yabegawa.net/
Blog http://yabegawa.jugem.jp/
発行責任者:松富士将和

事務局/山村塾・小森
〒834-1222 八女市黒木町笠原
9836-1 えがおの森内
TEL/0943-42-4300
mail/info@yabegawa.net

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～

5年前の九州北部豪雨で大きな被害を受けた矢部川、星野川、笠原川の復旧・復興を見つめ、これまでの矢部川を考えよ

5年前の九州北部豪雨で大きな被害を受けた矢部川を見つめ、これまでの矢部川を考えよ

むかし、「災害は忘れた頃にやつてくる」と言わわれ、世代から世代に繋がれた記憶が、地球温暖化が進んだ今は、記憶に刻まれたまま、薄れかけ



シノボジウム 「九州北部豪雨から5年」 ～矢部川の復旧、復興を見つめ、これから矢部川を考える～

このからの矢部川を考える～

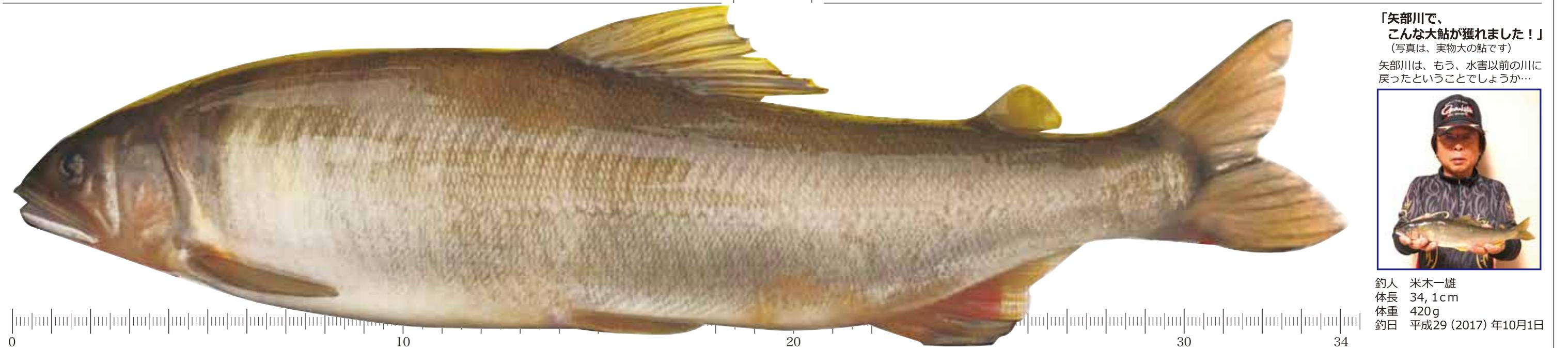
うと7月15日(土)にシンポジウムを企画しました。その10日前の7月5日に、「朝倉市、東峰村、日田市」の2017九州北部豪雨が発生し、急遽、2012九州北部豪雨の「矢部川からの提言」として、基調講演を「2012、2017豪雨災害」、話題提供を「201豪雨水害の矢部川からの提言」として開催し、120名を超える参加がありました。

力的な自然景観や文化を次世代に継承するために何が必要なのかを矢部川流域の皆さんと考えます。

主催:矢部川をつなぐ会
共催:八女市
後援:福岡県、筑後市、みやま市、柳川市、国土交通省、九州地方整備局、筑後川河川事務所
支援:一般社団法人北部九州河川利用協会(平成28年度河川利用推進支援事業)



西日本新聞の記事



釣人 米木一雄
体長 34, 1cm
体重 420g
釣日 平成29(2017)年10月1日

矢部川をつなぐ会の活動

矢部川をつなぐ会は、矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている流域の団体が、矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するため、平成17(2005)年に、平成17(2005)年11月に発足したネットワークです。構成団体は、新入会の「矢部川大鮎の会」を含め、9団体です。

（個人3,000円（一口）、団体5,000円（一口））
矢部川の川上から川下での連携・交流へのご協力を待ちしております。活動へのご寄付もよろしくお願いします。

振込先:福岡銀行（普通）1661129矢部

川をつなぐ会 代表理事 松藤将和

正会員（団体のみ）
賛助会員 5,000円

【会員募集中！】

活動報告

今年も、上流～下流域・有明海を結ぶ交流会「有明海観察会」「川の生きもの調査」、川の清掃や、矢部川について学ぶミニ講演会を実施しました。

また、12月17日(日)に、「第14回福岡県水より自慢大会in矢部川」を矢部川をつなぐ会が受託団体として運営を行い「2012と2017九州北部豪雨についての講演と、事例発表を行います。



矢部川をつなぐ会 構成団体



この、矢部川新聞第11号・九州北部豪雨特集号は、一般社団法人九州河川利用協会の助成を頂いて発行しました

松富士

第14回水より自慢in矢部川に間に合わせるために、早めに取組んだつもりが、結局ぎりぎりの仕上がりになり、Pコガ・野口さんはた・い・へ・ん迷惑をかけました。新年会には、鮎の塩焼きが出ますので、食べにおいて下さい。

「矢部川で、こんな大鮎が獲れました！」
(写真は、実物大の鮎です)

矢部川は、もう、水害以前の川に戻ったということでしょうか…



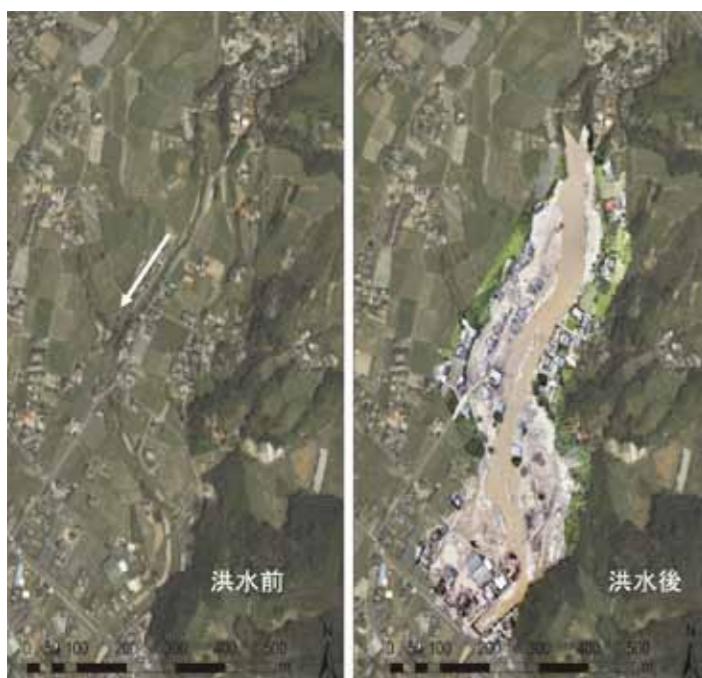
釣人 米木一雄
体長 34, 1cm
体重 420g
釣日 平成29(2017)年10月1日

今回はそういう土砂が発生したものがいわゆる扇状地的な少し土砂の堆積空間になつてゐるところにきて大量の土砂を発生させています。扇状地というのは非常に同じような等高線をしていきますのでこの辺にちょっと土砂が溜まりますと流路をこつちにかえたりこつちにかえたり首を振るわけですね。川の下流では、上流からくる土砂と流木で埋め尽くされ、もとの川の7倍から10倍もの幅で水が流れてい



2017九州北部豪雨・赤谷川中流部

で大量の土砂が崩壊すると、扇状地面で土砂が堆積して流路が変わるという事はあります。これが良く出てくる赤谷川の写真ですが洪水の前と後とでは流路が変わっています。



洪水前と洪水後の赤谷川の川の流れ変化

木町は全滅していた。世界で最も愛樹祭コンクールで、甲木町の空室(うつろ)の神木樹齢600年の桂の木が桂を襲った土石流を二つに分け村を救つたという話が李の大賞になつた。こんな子供たちの目があることも知りて欲しい。

「沢山の質問がありました」

A..今回の主たる原因は豪雨。今まででは林業と切り離した対策が多く、山の情報、状態が、よく分からぬ状態があり、これからは、山林について考えなければならぬ。

Q..地元の責任は

A..阿蘇の場合、野焼きをしないと木が繁り大きくなり、被害が大きくなるので続いている。山の木に対して防災費を負担するという考え方もなければと思う。

Q..八女市立花町の住民・流木がふたつの橋のひとつ橋脚に詰まり、ダムのようになつた。杉、檜の方が崩れ方が酷かつたが、朝倉のデータはどうか?

A..橋を広くするという問題ではない。調査結果は早く公表するようにしたい。

第十一号

最近、土木学会では、堤防の破堤の原因の研究が、矢部川の破堤を契機に盛んになりこの数年で随分進みました。堤防の内側と外側両方、水が流れやすい層が繋がっていないと、なかなか破堤は起きないということ、堤防の水があふれない状態で浸透して壊れるという場所は非常に限定されているという事が最近わかりました。そういう形でこういう元々の地形と災害と言うのはものすごく関係があります。



017九州北部豪雨・上流のため池の決壊

これから今回の水害で
特徴的だったのが
ため池の決壊で
す。ため池の上に
はたくさんの流
木が引っ掛けてい
ますので、上流か
ら流れてくる流
木をトラップす
る治水的な効果
も持つてはいるの
ですが、いったん
決壊してしまって
おいた方がいいで



2017九州北部豪雨・下流のため池の決壊

この余水吐に広かつたのをそのまま流に流して、流れで行くところに広かつたのをそのまま流に流して、流れで行きまつ掛かつていも流木が多く、このためが、このため下流を望ら下流を望されると、ここかぎな流量がされたといがわかりま三流からの流



017九州北部豪雨・山腹崩壊

今日は山腹崩壊がいたるところでおきました。沼という沢、斜面といふ谷を埋め尽くしてしまつたという表現が正しいようないい形の災害になっています。花崗岩の崩壊が多いですが、行つてみると岩質によつて差があるといふことはなく、花崗岩以外の所でも崩壊が多発していますので、花崗岩以外は安全だということではないです。



八女地区は7割が山林で、この農業や特産品の茶畑が被害を受けました。こういった場所は、助成金は出るが自分で復旧をしていかなければいけません。こうした生活基盤のところが非常に復旧に対して課題となります。

2012年7月の災害を受けて、8月31日から活動をはじめました。2014年2月にNPO法人がんばりによるよ星野村として法人化。農地復旧と観光復興を2本柱にして復旧活動を始め、15年12月までに来村ボランティアが823名、田んぼの修理箇所が147箇所、茶園が61箇所などの復旧作業を行いました。

茶園は、土砂が流れ込んで重機が入らないので、スコップで出しました。最後、根つこの方は熊手とはバケツリレーで土砂を捨てに行くというような作業をしました。

田んぼは、棚田100段選に選ばれた広内上原あります。取水源の谷は壊れているが、石積みは壊れておらず、何とかなるんじやないかと保存会の方々と話していたところに、活動に来ていた県立長崎大学の学生からP.O.法人国際ボランティア学生協会に所属している大学生を作つて復旧活動もできる」という話が出て、ここでの復旧プログラムを作つて復旧していこうういうことになりました。

2014年3月から活動を始め、最初は彼岸花の球根を植える活動からスタートし、ヒマワリも植えました。2015年の3月で谷の護岸工事が終わり、田植えができてくれました。2016年5月6月、試験的に田植えができる、星野小学校の生徒も来ててくれて、皆で稻刈り、脱穀をして、秋には三田村市長にも島谷先生も審査員に田植えをしましたが、3俵しかとれませんでした。

うことで、大学生たち復旧活動を続けてくれることになり、2016年にも3枚だけ試験的に田植えをしましたが、3俵しかとれませんでした。

うことで、大学生たち復旧活動を続けてくれることになりました。



横山川、図

カワニナは石についている珪藻やほかの植物の根等を食べる所以で、コケが生えて、深いところがある「ところはカワニナ」とつて都合がいい場所です。また、蛍が

上陽町寄口橋の傍のホタルが良く出る所に住んでいます。ホタルが住んでいる河川はどういう所で、また、今まで住んでいたホタルがいなくなつた場所というのはどんな所で、どんな河川工事がされたのかということを調べました。

ホタルが出るところは、餌となるカワニナが発生しやすい所ということが必須条件です。

カワニナは石についている珪藻やほかの植物の根等を食べる所以で、コケが生えて、深いところがある「ところはカワニナ」とつて都合がいい場所です。また、蛍が

上陽町寄口橋の傍のホタルが良く出る所に住んでいます。ホタルが住んでいる河川はどういう所で、また、今まで住んでいたホタルがいなくなつた場所というのはどんな所で、どんな河川工事がされたのかということを調べました。

矢部川では、元の大渕中学校の上流。辺春川では出ノ原、道の駅のところの黒岩、山中。星野川では、上陽の螢橋と、大曲、広瀬、二番上の方は星野中学校の所です。支流の下横山川、横山川でも点々とあります。

工事がたくさん行われて、工事がたくさん行われるところは、餌となるカワニナが発生しやすい所ということが必須条件です。

矢部川では、元の大渕中学校の上流。辺春川では出ノ原、道の駅のところの黒岩、山中。星野川では、上陽の螢橋と、大曲、広瀬、二番上の方は星野中学校の所です。支流の下横山川、横山川でも点々とあります。

矢部川では、元の大渕中学校の上流。辺春川では出ノ原、道の駅のところの黒岩、山中。星野川では、上陽の螢橋と、大曲、広瀬、二番上の方は星野中学校の所です。支流の下横山川、横山川でも点々とあります。

矢部川では、元の大渕中学校の上流。辺春川では出ノ原、道の駅のところの黒岩、山中。星野川では、上陽の螢橋と、大曲、広瀬、二番上の方は星野中学校の所です。支流の下横山川、横山川でも点々とあります。

